

What's Inside

パナソニック エナジーの事業紹介

社会と生活の進化を支える

エネルギーソリューション事業



リチウムイオン電池、蓄電モジュールおよび蓄電システムの開発・製造・販売を通じて、データセンター（DC）や電動アシスト自転車をはじめとする幅広い分野の電力供給を支えています。社会の電化・電動化の進展により市場は拡大しており、加えて生成AIの進化・普及を背景に、膨大な電力を必要とするデータセンター需要が中長期的に拡大しています。当社はこの成長領域への取り組みを強化し、安定かつ高効率な電源ソリューションを提供することで、エネルギー活用的高度化に貢献するとともに、持続可能な社会の実現を支えていきます。



蓄電モジュール・蓄電システム

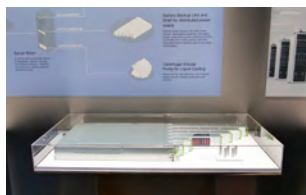


リチウムイオン電池

データセンター向け
バックアップ電源市場で
圧倒的シェア*

*DC向け分散型電源システム、当社調べ

2025年度のトピックス



CES2026に分散型電源向け
蓄電池バックアップユニットと
シェルフを出展



電動アシスト自転車の
最大市場である欧州にて
パック製造を開始

What's Inside

パナソニック エナジーの事業紹介

便利で快適なくらしを支える

エナジーデバイス事業

マンガンやアルカリ乾電池、リチウム一次/二次電池、繰り返し充電が可能なニッケル水素電池など豊富な製品ラインアップで、家電から水道・ガスメーターまで幅広い分野・用途で日々のくらしを支えています。また、乾電池は災害時にはライフラインを支える重要な役割も担っています。日本国内におけるマーケットリーダーとしての地位を維持しつつ、グローバルでの販売拡大を目指します。



単3形アルカリ乾電池で
世界No.1*
長もち

*最も長もちする単3形アルカリ乾電池 (LR6) としてギネス世界記録™に2017年10月2日認定。2026年2月6日再認定。IEC基準における全放電モードの平均値より。250mA 1日1時間放電終止電圧 0.9V など(温度: 20±2°C、相対湿度: (55+20, 55-40)%)

2025年度のトピックス



国内メーカー初、誤飲対策として
「苦み成分」を塗布した
コイン形リチウム電池を新発売



関西の水素関連施設を巡り、
未来の水素社会を体感するツアーを
大阪・関西万博テーマウィークに
合わせて開催

What's Inside

パナソニック エナジーの事業紹介

モビリティの電動化を支える

モビリティエナジー事業

車載用リチウムイオン電池の開発・製造および販売で、電気自動車 (EV) の進化・普及を支えています。車載用電池の先駆者として、円筒形電池の高容量化において常に業界をリードしてきました。これからもモビリティの電動化を支援し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

車載用円筒形リチウムイオン電池



4680



2170



1865

EVの航続距離を
延長する
世界最高水準の
エネルギー密度

2025年度のトピックス



米国カンザス州の車載電池工場で量産を開始
年産約32GWh体制を目指し
米国現地生産を加速



自動運転ライドシェアサービス
企業ズークス社 (米国) に
リチウムイオン電池を供給

くらしと社会を支える多様な電池ラインアップ

パナソニック エナジーは、100年以上の電池技術を基盤に、BtoBからBtoCまで多様な領域に電池を提供。

本ページでは、主要製品の特長を紹介します。

リチウムイオン電池

安全設計と高容量化を
追求する開発力

これまで培ってきた経験を基盤に高エネルギー密度と安全性、高出力を追求しています。車載向けでは世界最高レベルの高容量を実現しています。



リチウム一次電池

極限温度・長期使用を
支える高信頼設計

マイナス40～プラス125℃の極限環境でも性能を維持する材料・構造技術が特長です。自己放電を抑え、ガス・水道スマートメーターやTPMS(タイヤ空気圧監視システム)、医療機器、防災機器など長期間の安定稼働が不可欠な領域で幅広く採用されています。



ニッケル水素電池

過酷な環境での
信頼性・長寿命

高温・低温など厳しい温度環境下でも安定動作し、8～10年の長寿命を実現しています。この強みを活かし、eコール(緊急通報システム)などの車載機器や鉄道や風力発電などの社会インフラで広く採用されています。



乾電池

材料と製造を極めた
長もち性能

材料・工法・構造を磨き続ける技術力が強みです。エボルタNEOは、セパレーターの薄型化や材料の緻密化など改良を重ね、長もち性能を実現しました。さらに、自動搬送システムなどを導入したスマートファクトリー化により、高精度かつ効率的な生産と安定供給を両立しています。



安心安全を追求するモノづくり体制

電池の製造にあたって、製品の安全性や品質の高さは当社にとって最も重要な要素であり、製品安全を最優先とした、弛まぬ品質改革に努めてきました。

この高品質なセル生産を可能にしているのは、当社の高度なモノづくりプロセスです。

各工程における技術力と、技術・設備の内製化、トレーサビリティシステム、生産ラインマネジメントを組み合わせ、安心安全を追求しています。

高品質の電池を生み出すプロセス



出荷

What's Inside

製品を通じた環境への貢献

技術革新により高エネルギー密度化や長寿命化を実現した当社電池の提供を通じて、モビリティの電動化や蓄電システムの普及などに貢献しています。これらの製品は、従来製品と比較し、ライフサイクル全体で、社会全体のGHG(温室効果ガス)排出削減に貢献しています。当社ではこれを「CO₂削減貢献量」としてKPIに設定し、その拡大に取り組んでいます。

取り組みの詳細は、「脱炭素化の実現」ページへ

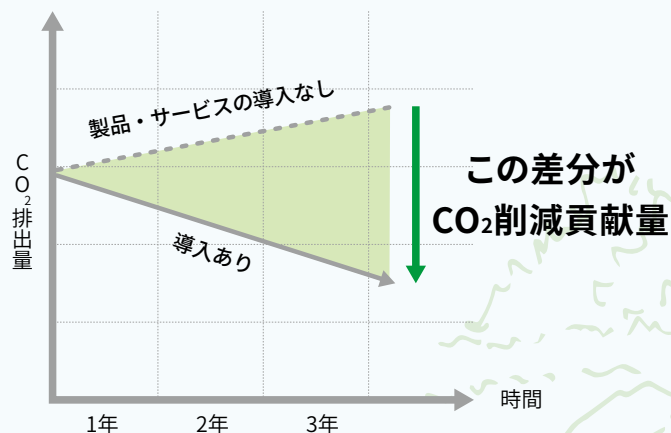
P.39

CO₂削減貢献量とは？

企業の製品やサービスを通じて、従来製品と比べ社会全体のGHG(温室効果ガス)排出削減にどれだけ貢献したかを示す指標

詳細は、「環境への貢献」ページへ

P.38



2025年度^{*1}の
CO₂削減貢献量は
近畿4府県^{*2}の面積における
スギ人工林の
年間吸収量^{*3}
に相当

^{*1} 報告年度に販売した対象製品が想定使用期間にわたりもたらす削減効果を、販売年度に一括して算定。対象製品：車載用リチウムイオン電池、電動アシスト自転車、データセンター向け蓄電システム、エンカパッケージ、アルカリ乾電池。

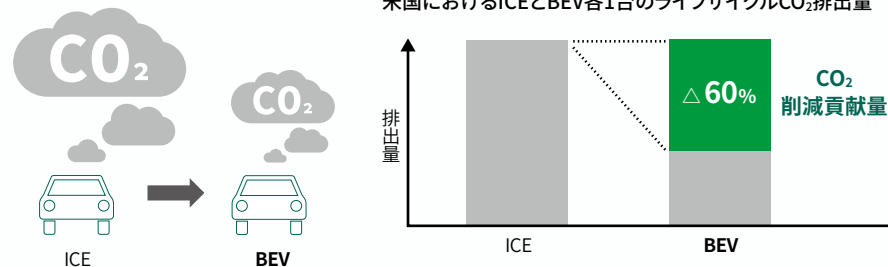
^{*2} 大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

^{*3} 出典：林野庁「森林はどのくらいの量の二酸化炭素を吸収しているの？」

BEV（二次電池式電気自動車）の場合

当社の充電電池を搭載したBEV(二次電池式電気自動車)は、エネルギーを動力へ変換する効率が高いため、同じ距離を走行した場合、ICE(内燃機関車)に比べてライフサイクル全体でCO₂排出量を削減できる。

米国におけるICEとBEV各1台のライフサイクルCO₂排出量

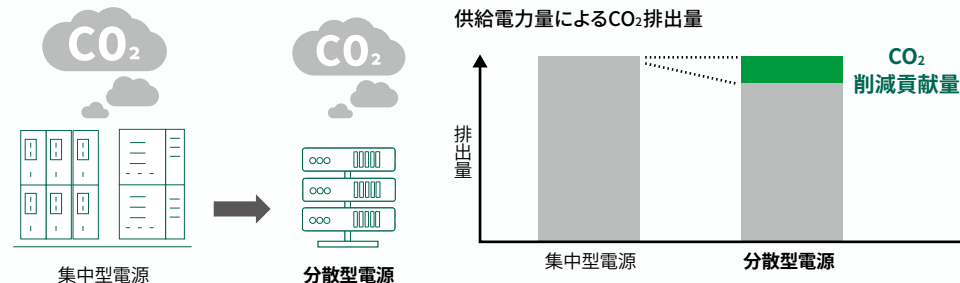


(参考) ICCT (The international council on clean transportation)
Global-Vehicle -LCA-White-Paper-A4-revised-v2.pdf (theicct.org)

DC（データセンター）の場合

ラックごとに電源を分散させる分散型電源は、電源を別室で集中管理する集中型電源よりサーバーへ供給される電力の変換回数が少ない。そのため当社の分散型電源用の蓄電システムを使用する場合、電力の利用効率が向上する。

DCにおいて、同一のIT負荷を稼働させる場合の
供給電力によるCO₂排出量



(当社DC向け蓄電システム)

What's Inside

ミッション・ビジョン実現に向けた 企業文化の形成

幸せの追求と持続可能な環境が、矛盾なく調和する社会の実現へ。
人類が地球に与えてきた環境負荷を減らしきる覚悟で、私たちは挑み続けます。
この決意をMission / Vision / Willに込め、全従業員で進化を重ねています。

Key Action 使命感本部



「ミッション浸透」・「共感形成」・「人財育成」
などを通じ、使命感人財の創出と拡大を
担う特命組織

使命感

My EnergyとOur Missionが
つながり生まれる
「動機」

私の原動力

My Energy

私の原動力が、
すべてのはじまり。

Key Action 森の会議



Mission / Vision / Willを体感し、
日々の意識と行動につなげる研修

ミッション・ビジョンの実現に向けて、
ウィルと行動の積み重ねが企業文化を形づくる

私たちの意思

Our Will

人類として、やるしかない。

進化の七道

ミッション実現に向け、
日々の行動を進化させるための
「行動指針」

森の会議 参加者の決意



- 共働を原動力に、仕事で志をともにする
仲間の拡大に挑戦
- 家族と仕事を原動力に、事業戦略実現への貢献に挑戦
- 子どもたちに今の自然環境を残すことを原動力に、全社の
環境意識向上、環境貢献を通じた企業価値向上に挑戦

私たちの目的地

Our Mission

幸せの追求と持続可能な環境が
矛盾なく調和した社会の実現。

Our Vision

未来を変えるエネルギーになる。



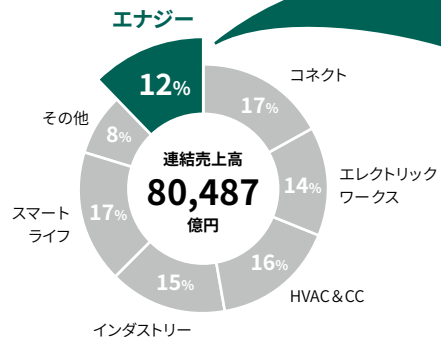
Key Action Evolution Day

ミッション到達に向けた現在地と
構想を共有するイベント

At a Glance (2026年3月時点)

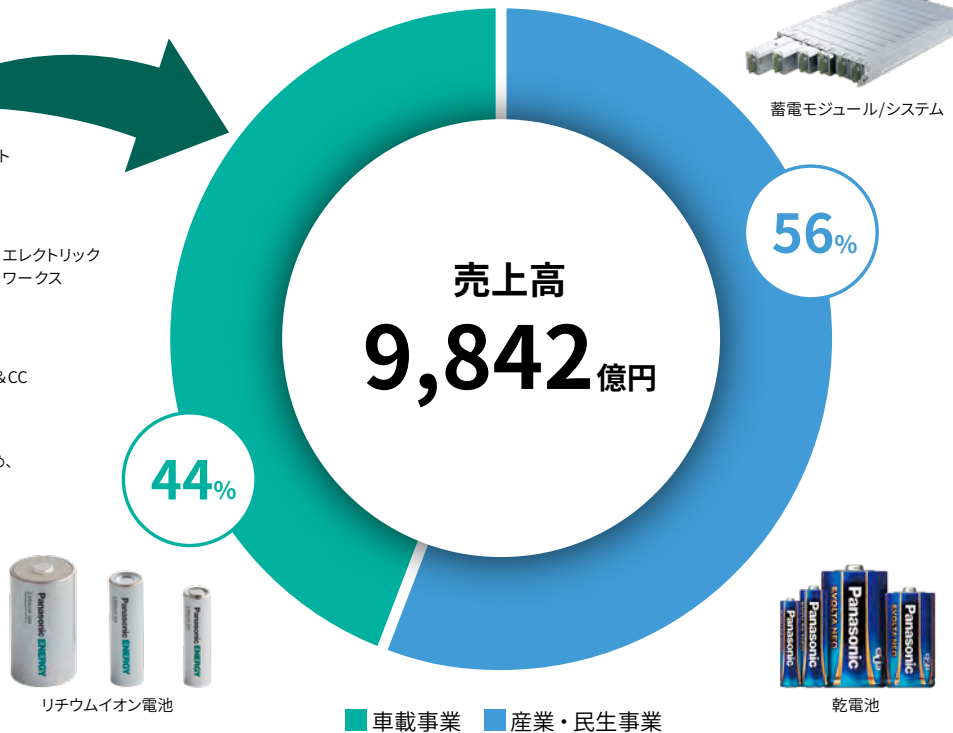
事業構成

パナソニックホールディングス
売上高構成比*



* 構成比は四捨五入により算出しているため、合計が100とならない場合があります。

パナソニック エナジー 売上高構成比



スナップショット

電池事業創業

103年

特許件数

約15,000件

従業員

約2.2万人

社員エンゲージメント

68pt

グローバル展開

拠点数 24 拠点
(国内12/海外12)

CO₂実質ゼロ工場*1

18 拠点*2

*1 年度末時点で省エネ推進や再生可能エネルギー導入、クレジットの活用などにより、CO₂排出を実質的にゼロとした製造・研究・開発拠点。

*2 2025年11月に施行された「再生可能エネルギーグリーン電力証明書管理実施細則（試行）」に基づく中国におけるグリーン電力証書の適用ルール変更前の基準で評価した拠点数。なお、当該適用ルール変更を反映した場合の拠点数は16拠点となる。

2025年度の主な動き

2025

7月

米国カンザス州の
車載電池工場で量産を開始



10月

二色の浜工場で太陽電池・
純水素型燃料電池・蓄電池の
3電源連携エネルギーマネ
ジメントシステムを本格運用
開始



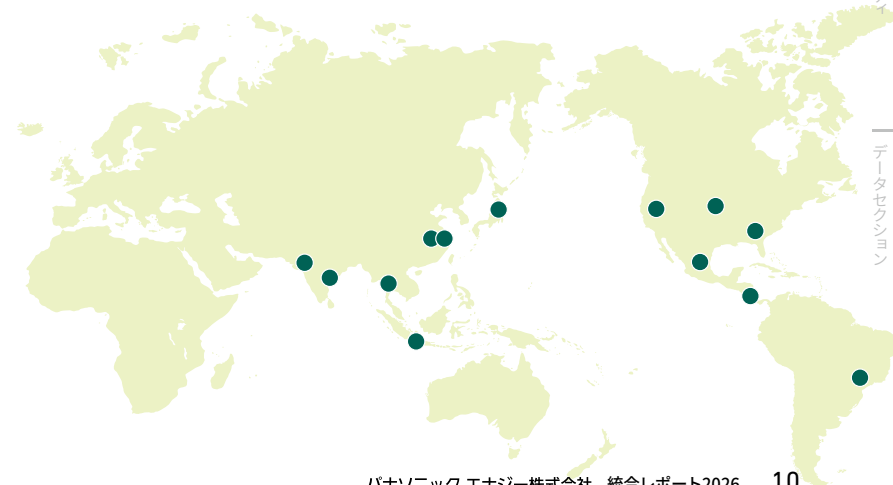
10月

米国ブラウン大学とリチウム
イオン電池の材料診断解析
に関して産学連携の共同開
発を開始

2026

2月

和歌山工場、
二色の浜工場が
JSA規格S1024に適合



CEO MESSAGE

激変する環境を味方に、
ぶれることなく
未来へ歩み続ける

代表取締役 社長執行役員
チーフ・エグゼクティブ・オフィサー (CEO)

只信 一生



エネルギーの力で新たな社会を支え続ける

いま、世界はこれまで以上の大きな変化の渦中にあります。国の政策の転換、地政学リスクの先鋭化、人工知能（AI）・半導体の急速な進化、そして電力需要の爆発的な増加。こうした変化は、私たちが担う「エネルギー」の価値と責任をかつてないほど大きくしています。電池は今や国家の安全保障にも関わるエネルギーマネジメントや情報セキュリティなどのクロスポイントとしての重要な責務を担い、社会インフラや日常生活のあらゆる場面で電化が進むにつれ、くらしの本質を支える重要な存在になっています。

一方、電池は資源国と加工国、製造国、利用国が複雑に絡み合うグローバル産業です。世界がテクノロジーでつながろうとする反面、地政学リスクによる分断が拡大すれば、電池はその影響を強く受ける可能性が高まります。ただ、どれほど事業環境が揺れ動こうとも、私たちの目指すゴールは変わることはありません。創業以来掲げてきたミッション「幸せの追求と持続可能な環境が矛盾なく調和した社会の実現」、ビジョン「未来を変えるエネルギーになる」、そしてウィル「人類として、やるしかない」。全従業員が心に宿すこの軸が揺らぐことはけっしてなく、むしろ世界が不確実性を増す今こそ、私たちの存在意義は社会からより強く求められていると感じています。



環境変化を適切に捉え、両輪経営で挑む

変化は常に起こるものであり、そこには必ず私たちのエネルギーが社会の困りごとを解決し、くらしの進化に貢献できる領域が生まれます。電気自動車（EV）市場の伸びが政策転換により鈍化した一方で、データセンター（DC）領域は急激なスピードで拡大しました。私たちは、こうした環境変化に柔軟に対応し、事業戦略を着実に実行してきました。これはまさに私たちが目指している「両輪経営＝車載事業と産業・民生事業の二軸」を体現しつつあります。

EVの進化を高いレベルで支えてきた実績が評価され、DCの急速な進展にも大きく貢献することができています。円筒形電池の材料・製造・生産技術のノウハウ、そして最も重要な経営資産である多様な人財が変化への高い適応力を生み出しています。

EVやDCがすべてつながる未来へ

EVとDCは別領域と捉えられがちですが、私はどちらも未来の社会インフラを構築していく地続きのプロセスであり、一つの大きな流れだと捉えています。AIが社会の頭脳となり、モビリティをはじめとする様々な機器がクラウドとつながり、人のくらしがデジタルと融合していく。自動運転車はクラウドと車載AI・センサーなどで動き、ヒューマノイドや産業用ロボットはAIの演算で動き、社会インフラのすべてが電気につながる。そしてその裏側には必ず「止まらない・安全な電池」へのニーズが存在します。EVもDCも、社会の“つながり”を支えるエネルギーシステムの一部であり、AIの進化とともにこれから様々な産業に変革が起こります。

私たちは電池セルをつくるだけでなく、電池の状態を監視・制御し、安全性と性能を最適化するバッテリーマネジメントシステム（BMS）や安全基準の策定まで含め、EV・DCどちらの領域でも世界トップクラスの信頼を獲得しています。こうしたノウハウは、今後登場する多様な機器の駆動・電力バックアップにも応用可能です。全従業員がそれを誇りに、あらゆる環境変化や困難にも柔軟に対応し、「必ずミッションを遂行する」という共通認識で挑んでいることが大きな自信や信頼構築へとつながっています。

生成AIの進化に伴い、DCの電力需要は今後も増え続けると見込まれています。半導体の進化によって演算能力が高まるほど、電力の効率化やバックアップ電源の重要性は増し、電池の安全性・信頼性は社会インフラの根幹を支える要素となります。電力制御のニーズも細分化するため、より最適なシステム提案が求められます。

CEOメッセージ

一方、政策の後押しが弱まったとはいえ、EV市場も確実に成長しています。米国では自動運転のロボタクシーが24時間体制で運行し、配車から決済までスマートフォンで完結する社会が始まっています。

私たちは、この大きな流れを単なる市場拡大ではなく、社会の持続可能性を支える責務として取り組んでいます。国や様々な産業との連携をさらに強化しながら未来創出に貢献していきます。

誰もやっていない、 一番困難な社会課題を解決する

AIやクラウドがつながることで起こる社会インフラの変化スピードは加速度を増し、電池が求められる領域も拡大します。必要な電池性能や制御システムは複雑化し、ボリュームも大きくなっています。当社の技術部門も2030年以降の未来を想定した製品・システムの開発を進めていますが、EVやDCに続く新たな柱を創出するためにも、多様化する要望への適応力やスピード感をさらに進化させていく必要があります。

100年の歴史で築き上げてきたモノづくりのノウハウと生産設備など、垂直統合で迅速に製品やシステムを作り上げる当社のビジネスモデルは、急変する環境下において大きな強みです。この強みを活かしながら、適応力を発揮すれば多様な領域で新たな事業機会をつかむことができるはずです。とはいえ、これほどのスピードで社会インフラが変化する局面は前例がなく、先導的に取り組むことは容易ではありません。ただ、「誰もやっていない、一番困難な社会課題を解決することに挑む」のは、創業以来連綿と続く当社のスピリットです。

新たな社会の扉はもうすでに開いています。AI・ロボティクス・モビリティ・エネルギーが融合し、人の暮らし方が変わる社会がすぐに訪れます。無人運転が当たり前になり、ロボットが工場・農業・物流を担い、高齢者や移動困難者の生活が劇的に変わり、デジタルとアナログが循環する新しい暮らしが始まります。その中心にあるのは、「安心な社会を支えるエナジー」です。私たちの祖業である乾電池をはじめとする一次電池はスマートメーターなどの社会インフラをくらしのタッチポイントとして「止まらない・つながる社会」のお役立ちをしてきました。社会の黒子として、しかし確かな存在として、未来の暮らし、そしてインフラを支える企業であることを目指しています。



国家戦略の「心臓」としての電池を コンソーシアムで未来へ伝承

電池は「エネルギー政策」「データセキュリティ」「ナショナルセキュリティ」の中核を支えています。政府は半導体と蓄電池を「特定重要物資」に指定し、官民一体で国内製造基盤の強化とサプライチェーンの強靱化を進めていますが、私は「脳=半導体」「心臓=蓄電池」と捉えています。だからこそ、私たちの事業は企業活動を超え、国家の産業基盤づくりにも深く関わっています。サプライチェーンの再構築や材料・設備メーカーとの強固なパートナーシップの構築、様々な企業が有する優れた技術を支援する取り組み、大学との産学連携による蓄電池人材の育成プログラムなど、関係地域とともに発展する産業の仕組みづくりを進めています。これらは事業を超え、日本の製造業の未来を次世代につなぐ取り組みです。

当社が掲げる「幸せの追求と持続可能な環境が矛盾なく調和した社会の実現」という明確なミッションは、同じベクトルを向いた多くの企業や行政、学術界などから共感をいただき、循環型社会構築に向けた様々な協業やコンソーシアムが立ち上がっています。未来の持続可能なインフラを支える電池産業を進化させ、社会をより快適なものにするためにも取り組みを活発化させていくべきだと考えています。

全員が主人公として使命感を燃やす組織へ

AIの進化でデジタルが社会を覆うほど、人のアナログ能力が重要になります。煩雑な業務や危険な仕事はAIやロボットに置き換わり、人々はコミュニケーションを深めながら「幸せの追求」に時間を使うようになると予測しています。電池をつくるにはサイエンスの知識が必要ですが、社会実装には人の心に明かりをともし「アートの感性」が欠かせません。私たちはミッションの実現に向け、従業員一人ひとりの“使命感”の向上を図る「使命感本部」や、生命と環境の調和の理想形を森から学ぶ「森の会議」、変革を実践した従業員を表彰する「七道ヒーローズ」など、独自の取り組みを通じて、従業員一人ひとりの使命感を引き出し、混ざり合いながら技術やフィロソフィーを伝承し、支え合う風土を育ててきました。ミッションの実現のために世代を超えて議論を交わし、互いの悩みや挑戦を共有し、自分の役割を自分の言葉で語り、変化を恐れず前に進む力を得ています。

ビジネスフィールドはデジタル領域ですが、根底にあるのは「人間と自然環境が共生するアナログな幸せ」の追求です。人間にしか発揮できないアナログ力こそが大切な財産で、それを引き上げることが私の重要な責務です。当社の人財を見渡せば、そこにはまだ社会に貢献できる可能性を秘めたたくさんの宝石が埋もれていることに気付かされます。その人の輝きこそが私たちの競争力の源泉であり、「価値は人からしか生まれない」。この信念はどれほど技術が進化しても変わることはありません。

世界の変化はますます激しさを増し、時に不安に包まれるかもしれません。しかし私は激変する時世の流れに対する従業員の活躍を見て、これまで以上にミッションの実現に確信を持っています。あらゆる変化の兆しに適応する力を身に付けながら、全従業員一人ひとりが主人公として、未来を切り拓いていきます。

毎年4月の社内イベントで従業員にミッションに向かう現在地と目指す姿を絵で発表しています。今年の絵は、「挑み続ける仲間」。左下の崖の上には新しい価値をつくっている仲間もいれば、まさに崖を登り切ろうとしている仲間もいて、みんながしっかり支え合っています。さらに眼前には次の価値創出を目指して突き進んでいる仲間もいます。いま、一人ひとりが自分の役割を果たしながら果敢にミッション実現に向けて行進を続けています。この行進は理想郷（右奥）を目指して止まることはありません。



パナソニック エナジーのDNA

— 経営理念の実践 —

私たちは、パナソニックの創業者・松下幸之助の経営理念に則り、

100年以上にわたり電池を進化させ、人々を不便から解放してきました。

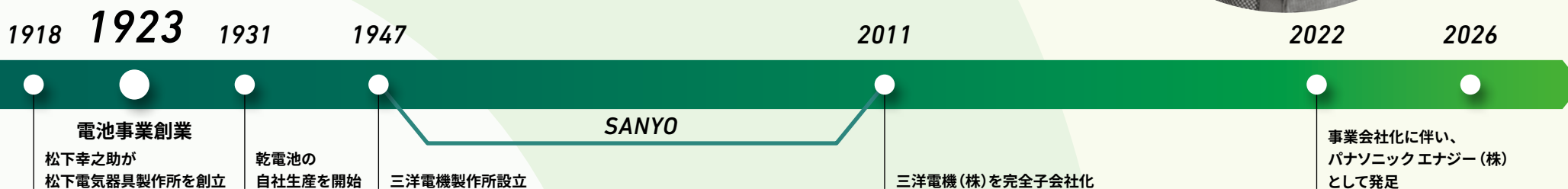
私たちは、豊かなくらしと環境が調和する社会に向け、まだどこにもない価値の創造に挑戦します。



創業者
松下幸之助

当社の沿革

*本ページに限り、社名の表記は当時の名前で記載しています。



脱炭素化・イノベーション

省エネ・長寿命

豊かなくらし

1923

- 砲弾型電池式
ランプを考案、発売



1923

- 砲弾型電池式ランプ用
「エキセル乾電池」を発売



1964

- ニカド電池「カドニカ」を発売



1963

- マンガン乾電池
「ナショナルハイトップ」
を発売



1969

- マンガン乾電池
「ナショナルネオハイトップ」
を発売



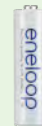
1994

- リチウムイオン電池を
開発



2005

- ニッケル水素電池
「エネルーブ」
を発売



2008

- ニッケル水素電池
「充電式エボルタ」を発売



2008

- 円筒形の車載用リチウムイオン
電池(1865サイズ)量産開始



2014

- DC設備のバックアップ
電源用リチウムイオン
電池を使用した蓄電シ
ステムの提供を開始

2017

- 円筒形の車載用
リチウムイオン電池
(2170サイズ)
量産開始



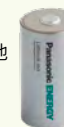
2017

- アルカリ乾電池
「エボルタNEO」発売



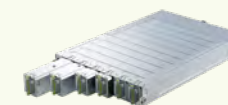
2024

- 円筒形の車載用
リチウムイオン電池
(4680サイズ)
量産準備完了



2025

- データセンター向け
蓄電システムの提供を本格化



3つの強み

パナソニック エナジーは、電池のリーディングカンパニーとして様々な業界初の技術を生み出し、くらしの豊かさと社会の便利さの向上に貢献してきました。

その中で培った、材料開発・モノづくり・知的財産等の「技術力」、新たな市場を切り拓く「市場創出力」、そして「信頼と実績」という3つの強みを競争力の源泉としています。

1

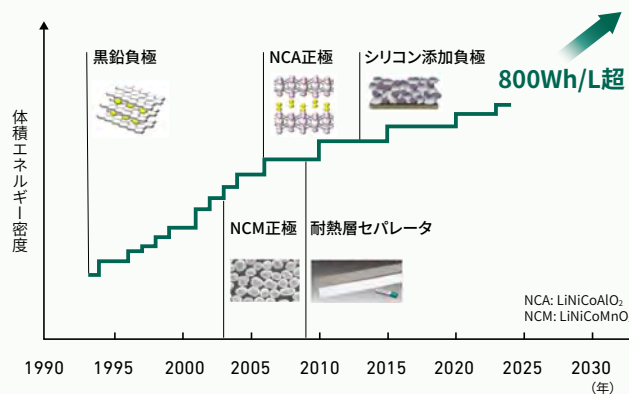
技術力

継続的な技術開発による 電池の高密度化で、世界をリード

電池事業創業100年以上にわたり培ってきた技術力を基盤に、車載用リチウムイオン電池において容量・エネルギー密度の向上を進めています。

これまで出願した特許は約15,000件を超えており、CFP低減に配慮しつつ、現在800Wh/Lのエネルギー密度を有する電池のさらなる進化に取り組んでいます。

円筒形リチウムイオン電池体積エネルギー密度



2

市場創出力

技術革新により 新たな電池用途を開拓

携帯電話向けに小型・高容量の電池技術確立し、モバイル端末の普及を支えてきました。高容量と高い信頼性を両立した電池はノートパソコン市場で高く評価され、その技術をEV向けへと展開することで新たな市場創出にも貢献してきました。現在は、蓄積した技術を進化させ、高エネルギー化・高効率化を通じて、データセンターのバックアップ電源などインフラ領域へも活用の幅を広げています。

電池技術の発展と新市場への展開



3

信頼と実績

高信頼の市場実績・ブランド

円筒形の車載用リチウムイオン電池を現在までに出荷本数：約200億セル、EV台数換算：約420万台（2026年3月末時点）を供給してきた実績があります。電池の製造にあたって、製品の安全性や品質の高さは当社のブランド力を示す重要な要素であり、製品安全を最優先とした、弛まぬ品質改革に努めてきました。それは車載用リチウムイオン電池の分野で、電池に起因するリコールゼロという成果にも現れています。

車載用リチウムイオン電池出荷実績

